77

国立国会図書館所蔵『新刊黄帝明堂灸経』の書入れについて

天野　陽介[1,2]，舘野　正美[3]，小曽戸　洋[2]，花輪　壽彦[2]
[1]日本大学大学院文学研究科，[2]北里大学東洋医学総合研究所，[3]日本大学文理学部

国立国会図書館所蔵『新刊黄帝明堂灸経』（WA7-115，無刊記，慶長古活字印本）（以下，国会蔵『明堂灸経』）には多くの書入れがなされている．この書入れについて，その意義を明らかにすることを目的に，これを調査した．

『黄帝明堂灸経』は，勅撰の医方集『太平聖恵方』（992年刊）の巻100に収録された「明堂灸経」「小児明堂」を合わせ単行されたもの．「明堂灸経」の内容は尺寸法，灸法に関する記述，経穴部位と主治症の記述からなり，「小児明堂」は小児の灸法に関する記述からなる．両書は元・竇桂芳により『鍼灸四書』（1311刊）に編入刊行され，日本では慶長古活字印本をはじめ版を重ね広く流布した．

書入れはほぼ全巻にわたり，多くは天頭および本文行間になされていた．最終丁（55丁）裏には墨書で「取騎竹馬灸法」12行が書入れられていた．書入れを行った者，年月に関する記載は見られなかった．朱筆では書名・人名への朱引き，経穴の別名，所属経脈名などが，墨筆では訓点，語音，語釈，異本との校勘，経穴部位に関する記述などが書入れられていた．書入れに用いられている書名・人名には『素問』『素注』『難経』『甲乙経（また甲乙）』『千金』『銅人』『聖済（またセイザイ）』『明堂』『十四経』『徐氏（また徐）』『聚英（また聚）』『会』『集韻』『金』『鍼灸集書』『集要』「師伝」「師説」があった．

「師伝」「師説」を含む書入れは計7カ所にみられた．以下，書入れ位置（丁数表裏-行数）：書入れ対象の本文「書入れ」としてこれらを示す．①17表-8：婦人懐孕…….若絶子，灸臍下二寸三寸間「師伝，二寸半」．②18裏-後3：或中二穴，在輸府下一寸「師説，一寸トアレトモ一寸六分ノ説ヲ用」．③18裏-後2：気衝二穴，在帰来下一寸「聚英，師説，二寸，聖済モ同二寸」．④19表-1：三里二穴，在膝下三寸「師説，膝眼下三寸」．⑤20表-1：天井二穴，……肘後一寸「師伝云，肘［一］寸」．⑥34裏-後3：玉枕二穴，在絡却後七分半「一寸半，聚，明堂，銅人．師伝ニ，一寸三分」．⑦44表-4：温溜二穴，在腕後五寸六寸間「五寸五分，師説」．これらを検討したところ，①②④⑦は，曲直瀬道三と秦宗巴との師弟問答書簡を録した『黄帝明堂灸経不審少々』（杏雨書屋所蔵）（以下『不審少々』）中の，道三による宗巴への返答にみられた．『不審少々』にはそれぞれについて，①「雖云，二寸半ノ義也」，②「雖云，一寸六分是」，④「三里，在膝眼下三寸」，⑦「五寸半也」と記されている．③⑤⑥は『不審少々』では言及されていない経穴であった．

また，書入れのうち3カ所は『不審少々』に同文または類文が見られた．これら書入れは，ⓐ10表-天頭：「天突．明堂ニハ三寸．聖済，聚英，素注，四寸．甲乙，千金，五寸」，ⓑ10裏-天頭：「曲池下．徐氏，銅人，二（三の誤か）寸．聚英，聖済，千金，二寸」，ⓒ44裏-天頭：庫房「天突ノ傍各四寸而一寸六分也」である．

以上のことから，国会蔵『明堂灸経』書入れにある「師」は曲直瀬道三を指すと考えられ，また，書入れⓐⓑⓒは道三門あるいは宗巴門の経穴研究と少なからぬ関係があると思われる．ここから，本書の書入れは両門に関わる者がなし，本論で検討した以外の書入れも両門の経穴研究と関わる可能性が考えられる．

我が国の経穴研究は江戸時代以降，多くの経穴書が編まれ活発に行われた．道三，宗巴の両者が，その先駆けとも言える安土桃山時代に諸書を参看し経穴研究を行っていたことは『不審少々』や宗巴著『兪穴参伍的法』などからも知れる．しかし，その実態は未だ詳細には明らかになっていない．国会蔵『明堂灸経』は両者に関わると思われる書入れがなされており，この書入れは同時代における経穴研究の実態を残した貴重な資料であると考えられる．